

平成31年2月1日

足立区立湊江第一小学校
校長 大森 千里 様

足立区立湊江第一小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 渡辺 宏章

平成30年度 学校関係者評価

1. 自己評価書全般について

- ・校長の姿勢、子どもの様子、教職員の様子等学校全体がまとまり、よい状況にある。
- ・あいさつ運動にPTA・開かれた学校づくり協議会の人を巻き込み、全体的に広がり実施できた。
- ・日常生活の中で、子ども達と挨拶する機会が増えた。また、挨拶の声が出る児童が増えてきた。
- ・子ども達が活動的で、表情がのびのびしている。
- ・児童の生活態度がここ数年間落ち着いている。
- ・ベテランの先生を中心に一人一人に細やかな指導が行われている。・ベテランのクラスが落ち着いている。
- ・少人数指導は、指導が行き届いてよい。
- ・算数少人数は、理解が進んだクラス、難しいクラスと児童の実態に合わせ内容を工夫していた。
- ・道徳の「ないた赤鬼」で役割分担し、演じることで赤鬼・青鬼の気持ちを工夫して考えさせていた。
- ・多くの児童に、湊一の学習規律が身に付いている。
- ・教師や友達の話聞き、授業に集中できるクラスが増えている。
- ・学力向上については様々な取り組みが実を結んでいるようだ。
- ・学習内容を板書で、丁寧にまとめて理解させていた。
- ・音楽の時間は高学年児童も、楽しんで大きな声で歌っている。
- ・児童の発表の仕方が、しっかり指導されていて、楽しそうに発表している。
- ・授業に集中する児童が増えているが、まだ発言や発表する児童が少ないように思う。
- ・子ども達の基礎体験不足が問題になっている。実感のある体験学習を活用することが求められている。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- ・授業診断を受け、教員は実践をふりかえり、改善しようとする教員が多いように思う。
- ・どの教科も基礎基本を徹底し、しっかりと身につけてほしい。そうすることが応用力を育む礎となる。
- ・子ども達の発声が小さいように思う。子どもが発言しやすくなる学級の雰囲気と発問等工夫してほしい。
- ・運動量を増やし、体力向上を図る必要性を感じている。体育の授業の改善が必要であり、保護者の協力を得て、投げる力を伸ばす指導を受けられた。
- ・放課後なども、地域の大人が多く目の見守り、子ども達が健やかに育つよう見守っていくことが大事。
- ・斜め横断や下校途中の遊び等地域と協力して指導していく。
- ・保護者が科学館や絵画・音楽会などに子どもと参加し、興味関心を高めるなどの働きかけが欲しい。

3. その他

- ・卒業生を含め地域の方々と挨拶する機会が増えている。
- ・チョークで板書すると飛沫し、空気を含め環境を汚す。別のものに変更できないか。
- ・ものを落とす子が多い。集中力が途切れてしまう。
- ・低学年の学習はこの後の基礎となるので、個別指導を徹底し、理解できるまで教えてほしい。
- ・運動会で飲酒していた大人がいた、学校・PTA が協力し改めさせなければならない。
- ・学校訪問時、保護者に自転車での登校をお断りしているが、減少しない。
- ・情報量が多く、簡単に調べられるようになったが、表面の知識で、想像力乏しく深い学びにならない。